

| 整理番号 | 発刊日 | Title | タイトル訳 | 出典 | 所見等 | 情報提供者 |
|-----------|-----------|--|---|--|--|-------|
| 2024 -126 | 2024/7/29 | Small Drones Force New Thinking on Air Superiority, Slife Says | 【無人機関連】 小型ドローンは航空優勢に関する新たな思考を迫るとSlife氏は述べる | Air & Space Force Magazine 2024/7/29 |  米空軍副参謀総長が、従来の「航空優勢」の考え方にドローンの影響を取り入れる必要について発言しました。中東で安価なドローンの対処に高価なミサイルや戦闘機を投入している現状を考慮してのものです。近年の地域紛争で一般化している、安価なドローンを戦場に大量投入して陸上目標や人員を攻撃する手法は、戦闘の在り方を大きく変えようとしています。 | 佐々木司 |
| 2024 -127 | 2024/7/30 | Australia Inks \$2.2B Deal to Extend Collins-class Submarines into 2030s | 【豪潜延命関連】 オーストラリアはCollins級潜水艦を2030年代まで延命する22億ドルの取引に署名 | USNI News 2024/7/30 |  豪政府がAUKUSの枠組みで米国からVirginia級原潜を入手するまでのつなぎとして、現有のCollins級潜水艦を2030年代まで延命することにしたようです。1996年に1番艦が就役したCollins級は約40年運用することになりますが、老朽化が著しく、巨額の予算を投じて十分運航に堪えられるでしょうか。Virginia級の建造も見通しが順調ではないようです。 | 佐々木司 |
| 2024 -128 | 2024/8/1 | Counterswarming Is Imperative | 【無人機群制御対策】 群れ(スウォーム)対策は急務だ | Proceedings 2024/8/1 |  スウォーム・ドローン戦術は、軍事的には、ミサイル、航空機、潜水艦などの出現に匹敵する可能性を秘めています。この論文にあるような対抗策の研究が、我が国の防衛装備庁でも、様々なORやシミュレーション、実試験によって検討されていることと思います。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -129 | 2024/8/5 | Outsourcing the US shipyard industrial base will outsource American sovereignty | 【米造修基盤関連】 米国の造船産業基盤のアウトソーシングは、米国の主権をアウトソーシングすることになる | Breaking Defense 2024/8/5 |  米海軍艦船のうち、海外展開している艦船を日本や韓国で修理する計画に対し、米国造船業者協議会の有力者が猛反対をしている論説です。確かに艦船建造、修理を海外に依存することは、米国内の造修基盤の弱体化につながります。しかし、現状では艦船建造も修理も予定より遅延傾向にあることを考慮すると、論説の内容は希望的観測に基づくあるべき論のように見えます。 | 佐々木司 |
| 2024 -130 | 2024/4/22 | Nuclear weapons at sea - is their use viable? | 【核兵器関連】 海上での核兵器 - その使用は可能ですか? | European Security & Defence 2024/4/22 |  世界で初めて原子爆弾という核兵器が使用された広島、長崎では、すでに79年という年月が経過したものの、その恐怖と苦しみはいまだに払拭されることはありません。毎年、8月6日と9日に平和記念式典が実施されている中、ウクライナ戦争後にロシアは核兵器の使用も辞さないという威嚇を続けています。本記事は、核兵器を海戦、すなわち海上で使用する場合について言及されたもので、陸上における戦術核との視点から大きく異なっています。 | 工藤悟 |
| 2024 -131 | 2024/7/30 | The Navy's Shipbuilding Dilemma | 【米艦建造問題関連】 艦艇建造のジレンマ | USNI YouTube 2024/7/30 |  USNIプロシーディングス誌の編集長ビル・ハンブレットと編集主任ブライアン・オルークによる米艦艇の建造に関する対談です。ズムウォルト級、フォード級、LCS、潜水艦、そして新型フリゲートに対する様々な問題について、忌憚のない意見を述べています。また、最後の方ではデルトロ長官の最近の政策についても触れています。最近のLCSや新型フリゲートの状況を見ていると、米海軍の設計能力の凋落傾向が懸念されますが、原因はそれだけではないようにも思います。プロシーディングス誌では、今秋以降、艦艇建造にスポットを当てた記事を集めるプロジェクトを考えているようです。話し言葉なので訳すのに骨が折れましたが、ざっと読み流していただいて結構です。この対談を他山の石とすべく、我が国の艦艇設計のひとつの参考にしていただければ幸いです。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -132 | 2024/8/2 | Royal Navy frigate strength to get worse before it gets better | 【英艦整備事情】 英海軍のフリゲート艦戦力、改善する前に悪化か | Navy Lookout 2024/8/2 |  英海軍のフリゲート艦兵力の展望に関する記事です。老朽化したType23を更新したいものの、代替艦の建造が遅々として進まず、一方でType23は船殻構造や主機の老朽化が著しく使用に堪えない段階まで進んでおり、本来必要なフリゲートの隻数が大幅に不足して対潜能力に大きな影響が出ているようです。写真のような大規模な船底外板切替工事を私は見たことがありません。 | 佐々木司 |
| 2024 -133 | 2024/8/15 | Supercarrier USS George H.W. Bush Now Has First Of its Kind Drone Control Center | 【米空母無人機管制関連】 空母USSジョージ・H・W・ブッシュに世界初のドローン管制センターが設置される | THE WAR ZONE 2024/8/15 |  空母にドローン専用の管制室が設置され、運用に向けての試験が開始されました。写真で見ると、それほど大きな設備ではないようです。およそ20年前から、UAVの運用について議論はありましたが、検討が進んでいないと感じます。運用構想等の問題もあるのですが、少子化に対応するためにも、無人ビークルの整備が早急に必要と考えます。 | 川原梅三郎 |
| 2024 -134 | 2024/8/12 | Navy warship production in worst state in 25 years. What's behind it? | 【米艦建造状況】 海軍の軍艦建造、過去25年で最悪の状態に。その背景には何があるのか? | Defense News 2024/8/12 |  米海軍の軍艦建造がこの四半世紀で最悪の状態であるという記事です。原因の一つは造船所の労働力不足にあるとして、業界全体で艦船建造のための労働力確保対策を行っているようです。一方で新造艦船への要求を頻繁に変更し、コスト超過と建造遅延を招いているとする海軍も記事では厳しく批判されています。労働力不足は我が国艦船建造基盤にも当てはまります。 | 佐々木司 |

| 整理番号 | 発刊日 | Title | タイトル訳 | 出典 | 所見等 | 情報提供者 |
|-----------|-----------|--|--|----------------------------------|--|-------|
| 2024 -135 | 2024/8/1 | The Father of Age-of-Sail Shipbuilding | 【歴史的造船技術】 帆船時代における造船革新の父 | Naval History 2024/8/1 |  帆船時代の有能な造船技師ロバート・セピングス(1767.12.11~1840.4.25)の話です。 このような人材が日本にも現れることを期待します。 海軍歴史マガジン8月号から。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -136 | 2024/8/16 | AUKUS countries update rules on sharing defense kit | 【AUKUS同盟動向】 AUKUS諸国、防衛キットの共有に関する規則を更新 | Navy Times 2024/8/16 |  米英豪によるAUKUSの動きが具体的に始まったようです。3国間の武器輸出に関する規制を大幅に緩和して武器の流通を迅速にするようです。それにしても、AUKUSと言えば原潜をオーストラリアに輸出するための取組と捉えていたが、無人機や極超音速などの先端技術の共同開発も含まれた取り決めであることは知りませんでした。 | 佐々木司 |
| 2024 -137 | 2024/7/22 | Canada says it will get a powerful under-ice sub force. Its money isn't where its mouth is | 【加潜水艦の課題】 カナダは強力な氷海下潜水艦部隊を手に入れると言明。その資金は口先だけでは足りません | The Telegraph 2024/7/22 |  さる7月10日に、今秋にも、次期カナダ潜水艦のRFIが発出されることが公にされましたが、当該潜水艦の課題を整理する英国紙記事です。突詰めますと氷海下航行能力と予算であるようです。依然として、北極海での運用実績を有する国々が技術情報を開示していない現状では、AIP潜水艦の水中持続力の大小のみで、氷海下運用を議論するのは、拙速に過ぎる気がします。適用技術の他、母港と哨戒海域の位置関係や補給すべき燃料の種類と設備なども含め、考慮すべきパラメータは複雑多岐に及ぶと思われます。 | 本山泰之 |
| 2024 -138 | 2024/6/19 | Marines Corps' landing ship taking longer, costing more than planned | 【米海兵隊揚陸艇計画】 海兵隊揚陸艇は計画より時間もコストもかかります | Defense News 2024/6/19 |  南西方面における部隊を迅速に機動展開させ、物資を継続的に輸送する所業のため、我が国も海上輸送群として、陸上自衛隊による輸送船舶が取得、配備される予定です。2022年度に小型級船舶(LCU)1隻、中型級船舶(LSV)1隻合計102億円、2023年度にLCU2隻合計108億円でいずれも内海造船が契約しています。仕様差が不明のため一概に比較できませんが、米軍の輸送船は価格が一桁高いようです。その原因は、記事にあるとおり商業船を改造するためのなか疑問です。陸・海・海兵隊統一の揚陸艇を取得することによる価格が低減できないのでしょうか。 | 工藤悟 |
| 2024 -139 | 2024/8/22 | Navy Could Sideline 17 Support Ships Due to Manpower Issues | 【米海軍人員・艦船配備計画】 米海軍は人の問題で17隻の支援艦を運用停止に | USNI News 2024/8/22 |  MSCは人のやりくりのため、現役艦船17隻を運用停止にして、その船員を他の艦に割り振る計画です。 今の配員は、配置数1に対し現員が1.27ですが、これを1.5にする計画のようです。米国の民間の船員組合は、一般にこの数字を2.0にして交代勤務することが義務付けられているということですが、これは余裕がありすぎる気もします。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -140 | 2020/5/13 | Lloyd Relieves Selby as NAVSEA's Chief Engineer | 【第三者的検査官の重要性】 ロイドがセルビーの後任としてNAVSEAチーフエンジニアに | NAVSEA NEWS 2020/5/13 |  旧聞に属しますが、最近の艦船装備幹部の忙殺ぶりを見ていて思うところがあり、ご紹介します。 「NAVSEAチーフエンジニア」は一般にEDO(Engineering Duty Officer)の少将が配置されます。海軍の艦船技術専門職のトップです。この配置は、SEA 05(艦船全般)の長とも兼務します。 NAVSEAの技術部門は、Independent Technical Authority(独立した技術的権限)として、運用や調達からは独立し、第三者的な監視機関として存在することを、前任者は別れの言葉で強調しています。海上自衛隊の装備幹部(特に艦船系)が昔から「オーナーであり、かつサーベイヤーでもある」と言われてきたのは、この第三者的なサーベイヤー(検査官・調査官)としての重要性を意識したものです。現組織でこの種の配置は見当たりませんが、装備幹部は常日頃これを意識すべきと思料します。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -141 | 2024/8/21 | China Launches Its Most Sophisticated Submarine to Date | 【中国新型潜水艦情報】 中国、これまでで最も洗練された潜水艦を進水 | Naval News 2024/8/21 |  中国海軍がVLSを搭載した通常動力型潜水艦を進水させたのではないかと推測されています。従来の元型SSよりもセイル後方の長さが延伸されているためです。元型SSにはなかったX舵を採用しているのも特徴です。我が国でも新たな防衛力整備計画で、VLSを装備しスタンドオフミサイルを搭載可能とする潜水艦の取得を目指すことが明記されています。 | 佐々木司 |
| 2024 -142 | 2024/8/27 | ASFAT Delivers 3000-Tonne Submarine Dock To Turkish Navy | 【土海軍浮きドック取得】 ASFAT、トルコ海軍に3000ton級ドックを納入 | ASFAT press release 2024/8/27 |  完全閉鎖が可能な潜水艦用浮きドックの紹介です。今、造船所はドック線が非常に厳しい状態です。そして、衛星の目から逃れるためには、このようなドックも整備計画に盛り込むべきではないでしょうか。 | 川原梅三郎 |